

新たな食の国際物流拠点の形成に向けて

「北海道クールロジスティクスプレイス株式会社」を設立

平成 29 年 12 月 19 日

苫小牧埠頭株式会社

苫小牧埠頭株式会社（代表取締役社長 橋本哲実）は、平成 29 年 12 月、弊社が中心となって事業化を推進している苫小牧東港における温度管理型冷凍冷蔵庫施設の建設・保有を目的とする「北海道クールロジスティクスプレイス株式会社」を設立致しました。

同社が立地を予定する苫小牧港（東港区国際コンテナターミナル隣接地）は、道内最大の港湾として港湾取扱貨物量全国 4 位、内航貨物取扱量全国 1 位と屈指の国際拠点港であり、充実した国内外定期航路を有することに加え、航空貨物取扱量が拡大を続ける新千歳空港にも至近に位置し物流拠点としての優位性を有しております。

同社が計画する温度管理型冷凍冷蔵庫は、国内外で高い評価を得ている北海道の農・水産物、畜産物等「食」の高いポテンシャルと苫小牧港が持つ物流拠点としてのアドバンテージを最大限に活用し、多様なニーズに対応できる多温度帯対応、鮮度管理に有効な CA (Controlled Atmosphere) 貯蔵機能、環境にやさしい自然冷媒の利用、省エネ・省力化の推進等次世代冷蔵倉庫のモデルとなる先進的な機能を有する道内最大級(21,000t)の施設となる予定です。

同施設は、苫小牧港唯一の大型港湾型冷凍冷蔵倉庫として、①道内食品出荷の安定化・平準化、②食品加工業の育成、③道内産品の混載・共同化、④空港と連携した輸出入体制の強化等による物流の高度化を通じて、北海道の「食」産業の更なる振興に寄与し、道産品の移輸出拡大、食関連産業の高付加価値化に貢献することを目指しております。

今次計画の中核を担う苫小牧埠頭(株)では、本施設を活用した生産－加工－物流が一体となった食産業の集積に向けて「北海道フードロジスティクス・イノベーション推進協議会」を設立し、北海道大学、株式会社苫東等関係者との連携を進めているところです。

新規事業の共同事業としての推進とリスク分担を図る観点から S P C (特別目的会社)方式を採用し、設立当初の段階では苫小牧埠頭(株)が資本金全額を出資しておりますが、今次事業の趣旨に賛同し長期的視野でご支援いただける企業に出資要請を行う予定であり、今後、事業化までの間に 5 億円程度までの増資を予定しております。

また、事業運営に当たっては、上記協議会のほか食産業や物流分野の内外専門企業と連携を図る考えです。

<会社概要>

会社名	北海道クールロジスティクスプレイス株式会社
本社	苫小牧市入船町 3 丁目 4 番 21 号（苫小牧埠頭(株)本社内）
設立日	平成 29 年 12 月 1 日
資本金	1 億円（苫小牧埠頭(株)100%出資） 最終的には 5 億円程度までの増資を予定しております。
代表者	橋本 哲実（苫小牧埠頭(株)代表取締役社長）

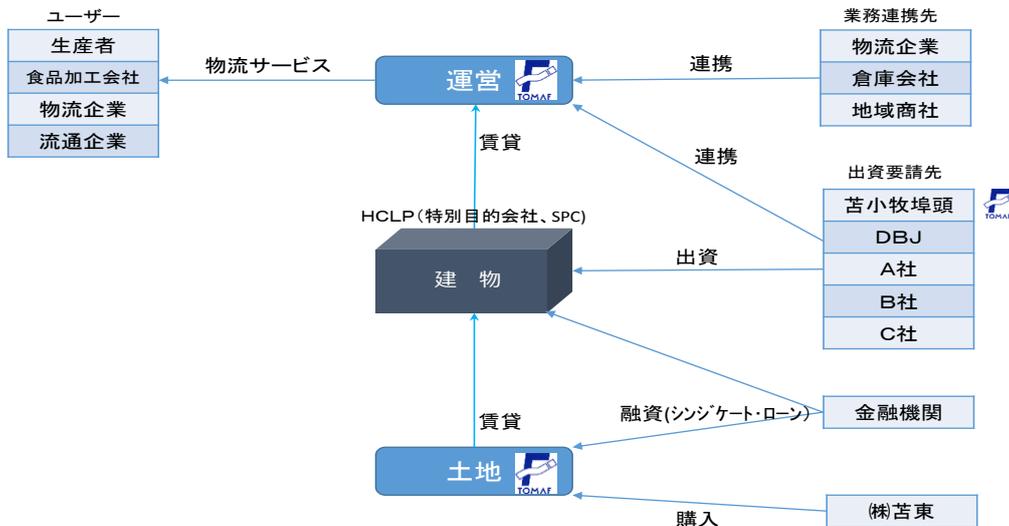
<施設概要（予定）>…下図参照

建設地	苫小牧市弁天1番地(苫小牧東港国際コンテナターミナル隣接地)
面積	敷地面積 28,442 m ² 、建築面積 3,985 m ² 、延床面積 14,595 m ²
構造	耐震Ⅱ類、外断熱鉄筋コンクリート造、地上4階建
収容能力	21,000 t（うち冷蔵 7,900 t、同冷凍 7,000 t、冷凍/冷蔵切替 6,100 t）
対応温度	冷蔵 0～15℃、冷凍 -40～-25℃、冷凍/冷蔵切替 -25～15℃
鮮度維持	CA冷蔵庫(2,100t)、急速冷凍庫、加除湿装置
省力化	自動温度制御、自動倉庫、移動ラック、無人フォークリフト等
環境対策	自然冷媒機器(CO2、一部 NH3)
BCP 対策	津波避難場所機能、免震装置、非常用発電機等
総事業費	64 億円

<施設の特徴>

- 既存の道内物流を超えた「港湾型」冷凍冷蔵庫として新しい物流モデルを構築し、食品出荷の安定化・平準化、道内産品の混載・共同化、全道からの加工原材料の安定調達に寄与<ポートサイド>
- 新千歳空港と苫小牧港による効率的な輸出入体制の整備<ダブルポート>
- 多様な荷主の食品関連貨物を扱う複合型共同施設<マルチユース>
- 食品の分散保管や港湾の防災拠点化による災害対応機能の強化<バックアップ>
- 老朽化が進む道内冷蔵庫の更新需要に対応<リニューアル>
- 大規模な先進的施設として高付加価値サービスを提供<イノベティブ>

<事業スキーム>



- ・共同事業としての推進とリスク分担を図る観点から SPC 方式を採用
- ・苫小牧埠頭株所有地に当社が冷凍冷蔵庫を建設、苫小牧埠頭株に賃貸
- ・冷凍冷蔵倉庫事業は苫小牧埠頭株が責任を持って運営

<今後のスケジュール（予定）>

平成29年12月～翌3月	実施設計
平成30年 3月～ 4月	施工業者入札、決定
平成30年 7月頃	建設工事着工
平成31年度 上期	竣工、営業開始

(イメージ図)



(現地航空写真)



以 上

「北海道フードロジスティクス・イノベーション推進協議会」

【設立の趣旨】

日本の成長に貢献する北海道食の移輸出拡大のためには、物流の効率化、輸出入体制の整備、食産業の付加価値向上等が必要であり、物流面（フードロジスティクス）と産業面（フードインダストリー）における課題解決のため、我が国最大の産業基地であり、交通、都市機能とのアクセスに優れ、近年食関連産業の立地が進む苫東地域等において、高度な物流機能と付加価値の高い食品加工機能が一体化した食産業基地モデル（フード・コンプレックス）の形成を目的として本協議会を設立。

【協議内容】

北海道のフードロジスティクスの高度化、フードイノベーションと食産業基地モデルを実現する課題と事業化の方向性等を検討する。

【開催期間】

平成 29 年 6 月～平成 30 年 4 月（予定）

第一回 協議会の設立（平成 29 年 6 月 29 日）

第二回 農協アンケートの報告、課題の整理（平成 29 年 11 月 27 日）

第三回 「北海道フードロジスティクス・イノベーションモデル」を検討予定（平成 30 年 2 月頃予定）

【委員等】

発起人：(株)苫東、苫小牧埠頭(株)、北海道大学

委員長：石井吉春北海道大学公共政策大学院特任教授

委員：食品物流事業者、食品加工事業者、農業生産者、金融機関、学識経験者、シンクタンク等

(株)きのとや、(株)セイコーフレッシュフーズ、とまこまい広域農業協同組合、

(株)ニチレイ・ロジスティクス北海道、(株)日本貨物鉄道、日本通運(株)、

ホクレン農業協同組合連合会、北海道空港(株)、

(一社)北海道食産業総合振興機構、北海道物流開発(株)、

(株)日本政策投資銀行、(株)北洋銀行、(株)北海道銀行

事務局：北海道大学、(株)G B 産業化設計

以上